

## 中国語を母語とする日本語学習者の「デノ」と 「デ」の誤用：コーパスに見られた誤用を中心に

楊, 雯嬾  
九州大学大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻

<https://doi.org/10.15017/1807167>

---

出版情報：地球社会統合科学研究. 6, pp.89-95, 2017-02-28. 九州大学大学院地球社会統合科学府  
バージョン：  
権利関係：

# 中国語を母語とする日本語学習者の「デノ」と「デ」の誤用 —コーパスに見られた誤用を中心に—

ヨウ 楊      アン ラン 雯 爛

## 1. はじめに

日本語初級レベルの学習項目では、「デ」及び「ノ」の使用頻度が高い。しかし、日本語学習者には連用格の「デ」と連体格の「デノ」の使い分けは難しく、それに関する誤用、混同などが起きやすいことが予測される。

そこで、誤用コーパス<sup>1</sup>を用いて検索した結果、中国語を母語とする日本語学習者はもともと「デノ」を使うべきところに何も使っていない誤用（以後は「\*デノ不使用→デノ」で示す）、或は「デノ」を使うべきところに「デ」だけを使う誤用（以後は「\*デノ→デ」で示す）「デ」を使うべきところに「デノ」が現れる誤用（以後は「\*デ→デノ」で表す）、というような使用実態が明らかとなった。

これに関する先行研究では、名詞修飾の語学研究や格助詞及び名詞修飾の習得についての研究は盛んになりつつあるが、「デノ」と「デ」についての習得や誤用研究は非常に少なく、あまり明確にされていない。

本研究は中国語を母語とする日本語学習者を対象にして、「デノ」と「デ」についての誤用実態を明らかにしていく。

## 2. 先行研究と研究目的

格助詞「デ」の意味用法に関しては、国立国語研究所(1997)、日本語記述文法研究会(2009)等で研究がなされてきた。

「デノ」と「デ」の誤用についての習得研究は非常に少ない。市川(1997)は、学習者の「デノ」と「デ」の混同例を挙げ、日本語学習者による「[の]の付加」、「[の]の脱落」のような誤用例が記載されている。

(1) 私は1981年から1985年までアメリカ・カトリック大学で勉強した。そこで(→そこでの)私の専門は米国の国家の政府(→国家政府)についての政治学だ(→だった)。

(2) オバートで(→オバートでの)生活は本土の町と比べると厳しくない。

「学習者が連用修飾・連体修飾で混同する項目は、「の」の脱落・「の」の付加、複合助詞、「ように・ような」、「ために・ための」などで多く見られる。したがって、それぞれの項目を指導するときに、十分説明・整理する必要がある。」と述べている。

しかし、市川(1997)では誤用例について、詳しく考察や誤用分析などがなされていないようである。つまり、従来の研究では、格助詞「デ」や連体修飾についての研究は盛んになりつつあるが、「デノ」と「デ」の誤用についての言及は少ない。

本研究は誤用コーパスを用いて誤用例を収集し、先行研究を踏まえた上で誤用分析を行う。そこで、誤用実態と誤用の原因などを解明していく。

## 3. データと研究方法

本研究は『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス2015』Ver.5を使用している。本コーパスは中国国内の大学40校からの大学学部生及び大学院生が日本語で書いた作文を日本人ネイティブが添削したデータが含まれている。ファイル数は8,535、文字数は5,555,632、タグ数は63,684である。本稿における「\*デノ不使用→デノ」、「\*デ→デノ」と「\*デノ→デ」の誤用か否かの判断は本コーパスの判断基準に従っている。本稿で取り上げる例文は、「\*デノ不使用→デノ」、「\*デ→デノ」と「\*デノ→デ」の誤用箇所以外の誤用について、すでに正用タグに従い修正を行っている。

まず、コーパスを用いて、「\*デノ不使用→デノ」、「\*デ→デノ」と「\*デノ→デ」の誤用を抽出する。そして、それぞれの誤用を分類してパターン化する。続いて、先行研究を踏まえ、学習歴別及びパターン別に誤用分析を行う。最後に、それらの分析から結論を導出する。

その誤用例の分析を詳しく行う前に、まず格助詞「デ」の主な用法について概観しておく。ここでは、国立国語研究所(1997)、高橋(2005)、日本語記述文法研究会(2009)等の研究を参考にした上で、本稿で取り扱う「デ」の意味用法だけ挙げる。詳細は次の表1にまとめる。

#### 4. コーパスに見られた「デノ」と「デ」の誤用

コーパスを用いて精査した結果、「デノ」の不使用の誤用は7例、「デノ」を使うべきところに「デ」だけを使う誤用は22例、「デ」を使うべきところに「デノ」が現れる誤用は5例見られた。詳細は次の節で述べる。

##### 4. 1 「デノ」の不使用

###### 4. 1. 1 誤用実態

コーパスによると、「デノ」不使用の用例は7例が観察された。「デ」の意味に従い考察したところ、7例における「デ」はすべて「場所」を示している。

誤用例を学歴別に分けてみると、学習歴1年と1年半の学習者はそれぞれ1例であり、8級試験<sup>2</sup>では、「場所」の誤用例は1例であり、学習歴3年半の誤用例は4例があるという結果が分かった。

詳細は以下の表2にまとめる。

表2から分かってきたのは、学習歴1年～3年半の学

表1 「デ」の主な意味用法

「デ」の意味類型	用 例
場所	庭で犬が吠えている。
様態	裸足で歩く。
道具手段	ナイフでチーズを切る。
原因	強い風で看板が倒れた。
材料	紙で鶴を折る。
領域	富士山が日本で一番高い山だ。
根拠	甲高い声でわかった。

習者にはこのような誤用現象が起きた。特に学習歴3年半の学習者には顕著に見られた。

さらに、誤用例をまとめたものが、次の表3である。

##### 4. 1. 2 誤用分析

学習歴1年～8級試験の学習者では、次の誤用例(3)～(5)が観察された。

(3) 実際には、大学<\*デノ不使用→での>勉強の前は、日本と関係のあることがよく知りませんでした。(学部1年生/学習歴1年)

(4) 一方、若者のネット<\*デノ不使用→での>チャットがはやっており。(学部生2年生/学習歴1年半)

(5) 四年の大学<\*デノ不使用→での>日本語の勉強を通じて、日本を多かれ少かれ…(8級試験)

誤用例(3)～(5)における下線部は中国語に訳すと、それぞれは「大学学习」、「网络聊天」、「(通过) 四年的大学英语的学习」であり、中国語として自然な文となる。

また、同じ学習歴3年半の学習者には同じ誤用現象も見られた。

表2 「デノ」不使用の誤用分布の内訳

		学習歴			
		1年	1年半	8級試験	3年半
デの意味	場所	1例	1例	1例	4例

表3 「デノ」不使用の誤用例

デ	誤 用 例	学習歴
場所: 7例	実際には、大学<*デノ不使用→での>勉強の前は、日本と関係のあることがよく知りませんでした。	学部1年生/学習歴1年
	一方、若者のネット<*デノ不使用→での>チャットがはやっており	学部生2年生/学習歴1年半
	四年の大学<*デノ不使用→での>日本語の勉強を通じて、日本を多かれ少かれ…	8級試験
	男性の社会的地位と家庭<*デノ不使用→での>地位は非常に高い。	学部4年生/学習歴3年半
	女性の社会的地位と家庭<*デノ不使用→での>地位は低くて、女性は付属的立場に置かれる。	学部4年生/学習歴3年半
	古代日本では、男性と女性の社会的地位や家庭<*デノ不使用→での>地位は同じではなかったので、「同一労働と違って料」という現象がよく見られる。	学部4年生/学習歴3年半
	日本女性の社会的地位と家庭<*デノ不使用→での>役を表している。	学部4年生/学習歴3年半

表4 「\*デ→デノ」の誤用分布の内訳

		学習歴				
		半年～1年半	2年半～3年	4年	8級試験	6年～6年半
デの意味	場所	8例	1例	4例	2例	4例
	様態	1例	1例	0	0	0
	道具手段	1例	0	0	0	0

(6) 男性の社会的地位と家庭<\*デノ不使用→での>地位は非常に高い。(学部4年生/学習歴3年半)

(7) 女性の社会的地位と家庭<\*デノ不使用→での>地位は低くて、女性は付属的立場に置かれる。(学部4年生/学習歴3年半)

(8) 古代日本では、男性と女性の社会的地位や家庭<\*デノ不使用→での>地位は同じではなかったの、「同一労働と違って料」という現象がよく見られる。(学部4年生/学習歴3年半)

(9) 日本女性の社会的地位と家庭<\*デノ不使用→での>役を表している。(学部4年生/学習歴3年半)

誤用例(6)～(8)における「家庭地位」は中国語としてそのまま使用できる。誤用例(9)における「家庭役」は中国語にすると「家庭角色」となり、そのまま使用可能となる。

上記の誤用例から見ると、「デノ」不使用の誤用には中国語の母語の影響に関わっているようである。このような誤用が生じるのは中国語母語の負の転移が一つの原因として考えられる。

4. 2 「\*デ→デノ」の誤用

4. 2. 1 誤用実態

「デ」の意味に従い、「\*デ→デノ」の誤用例を学習歴別、パターン化別にしてまとめてみると、学習歴半年～1年半の学習者は「デ」が「場所」の場合の誤用例は8例、「デ」が「様態」と「道具」の誤用例はそれぞれ1例、学習歴2年半～3年は「デ」が「場所」「様態」を表す誤用はそれぞれ1例、学習歴4年には「場所」の誤用例は4例、8級試験では、「場所」の誤用例は2例、学習歴6年～6年半は「場所」の誤用例は4例があるという結果が分かった。

表4から見ると、「デ」の文法上の意味に従ったパターン別の誤用には「デ」が場所を表す場合の誤用が学習歴を問わず圧倒的に一番多い。特に学習歴半年～1年半の学習者にはこのような「デ」が場所の誤用が多く観察された。次は「デ」が「様態」と「道具」を表すものである。

誤用例の順位に従い、具体的に「\*デ→デノ」誤用例を見ると、次の表5になる。

表5 「\*デ→デノ」の誤用例

デ	用 例	学習歴
場所： 19例	実家で<*で→での>休暇初日は、私は9時30分に起床し……	学部1年生(上)/学習歴半年
	新年おめでとうございます。お久しぶりです。日本で<*で→での>新年はどうですか。	学部生1年(上)/学習歴半年
	同窓会は本当に楽しかった。<過剰使用/主題/あなたは→○>あなたは大学で<*で→での>たくさんの新しい友達です。(学部1年生(上)/学習歴半年)	学部1年生(上)/学習歴半年
	大学生活は初めの時、大学で<*で→での>言葉や食事の時のことを知りませんでした。	学部1年生(上)/学習歴半年
	はじめの時は、大学で<*で→での>言葉や食事のことなどがとても苦手でした。	学部1年生(上)/学習歴半年
	ネットカフェで<*で→での>チャットはおもしろいです。	学部1年生/学習歴1年
	しかし、学院で<*で→での>朝自習<格助詞/が→は>強引なものだ。	学部2年生/学習歴1年
	本サッカー界史上初の最高のレベルを作った後、栄光を考えず、中国で<*で→での>挑戦を選びました。	学部2年生/学習歴1年半
	中国で販売される日本の週刊ファッション雑誌などはほとんど日本本土で<*で→での>販売時間と同時になっている。	学部4年生/学習歴3年半
	実は大学で<*で→での>成績が悪いゆえに、卒業を<テンス・アスペクト/心配する→心配>しています。	8級試験
	例えば日系企業と中国企業で<*で→での>日本向けの<名詞/システム→業務>などだ。種類は営業と内勤など。	8級試験
	ロシアの森林の火災、アメリカで<*で→での>石油が漏れることによる海汚染、我が国大連で起こっている海汚……	M1/学習歴4年
	ふっと、以前、ネットで<*で→での>ある日本人のおばあさんとの話を思い出した。	M1/学習歴4年
	私たちは生活の中で<*で→での>切実な契約についてはどうでしょう。	M1/学習歴4年
	しかし、今の社会で<*で→での>契約は両方が対等であるもとで交わしたもののなのです。	M1/学習歴4年
	宮中<格助詞/に→で><*で→での>「泰山府君祭」は秘祭とみなされたので、具体的な祭……	M3/学習歴6年か6年以上
	そういうことがあるから日本人の商談・交渉で<*で→での>勢いはまず負けといえるでしょう。	M1/学習歴6年半
	1997年の調査で<*で→での>この部分の結論とほぼ一致している。	M3/学習歴6年か6年以上
	日本と韓国の伝統文化の発展状況も少しだけ見たが、韓国で<*で→での>伝統文化を表す民族衣装は高級品で、民俗的な礼儀なども、上品なものとなっている。	M3/学習歴6年か6年以上
様態： 2例	一人で<*で→での>生活がいいとき、どうして絶対に恋愛や結婚でなけ……	大学1年生/学習歴1年
	一人で<*で→での>生活も大変なので、家を支える自信がない。	学部生3年/学習歴2年半
道具： 1例	日本語で<*で→での>会話の能力がまだ低いと思っています。	大学1年生/学習歴1年

4. 2. 2 誤用分析

4. 2. 2. 1 「デ」が「場所」を表す場合

(10) ふっと、以前、ネットで<\*で→での>ある日本人のおばさんとの話を思い出した。(M1/学習歴4年)

(11) 実は大学で<\*で→での>成績が悪いゆえに、卒業を心配しています。(8級試験)

(12) ネットカフェで<\*で→での>チャットは面白いです。(学部1年生/学習歴1年)

(13) 新年おめでとうございます。お久しぶりです。日本<\*で→での>新年はどうですか。(学部生1年/学習歴半年)

誤用例(10)～(13)は「～は・が～」の構文であり、「は・が」の前の文型は名詞形式にならない。彭(1996)によれば、(10)は「空間規定的な結び付き一人の存在する場所」、(11)は「空間規定的な結び付き一状態の成立する場所」、(12)と(13)は「空間規定的な結び付き一出来事の成立する場所」であり、NP1とNP2の間は「での」を用いて修飾するべきである。

また、(13)の誤用は先に述べた原因のほかに、それも学習時間が短い或いは知識不足などによるものではないかと思われる。

さらに、誤用例(10)～(12)の下線部を中国語に訳したものが以下の(10')～(12')である。

- (10') (想起) 在网上和某日本老太太的话
- (11') (因为) 在大学成绩不好, (担心毕不了业)。
- (12') 在网吧聊天(有意思)。

これらはすべて、自然な文となるため、母語の干渉も誤用の原因の一つではないかと考えられる。

4. 2. 2. 2 「デ」が「道具手段」を表す場合

(14) 日本語<\*で→での>会話の能力はまだ低い…(大学1年生/学習歴1年)

誤用例(14)は「～は～」の構文であり、「は」の前の文型は名詞形式にならない。彭(1996)の概念を借りると、(14)の下線部は「手段規定的な結び付き一道具のむすびつき」であり、NP1とNP2の間は「で」を使わず「での」を使用するべきである。

また(14)の下線部におけるNP2の「会話」は「する動詞」の「会話する」から転換したものであるため、学習者はNP2を「する動詞」と混同する可能性が高いと言えよう。

4. 2. 2. 3 「デ」が「様態」を表す場合

(15) 一人<\*で→での>生活も大変なので、家を支える自信がない。(学部生3年/学習歴2年半)

(16) 一人で<\*で→での>生活がいいとき、どうして絶対に恋愛や結婚でなけ……(大学1年生/学習歴1年)

誤用例(15)と(16)は「～も・が～」の構文であり、「も・が」の前の文型は名詞形式にならない。彭(1996)によると、(15)と(16)は「様態規定的な結び付き」であり、「での」を用いるべきである。

(15)と(16)におけるNP2の「生活」は「する動詞」の「生活する」から転換したものであるため、このような誤用が生じるのは「NP2と『する動詞』との混同」が誤用の原因の一つとして考えられる。

表6 「\*デノ→デ」の誤用分布の内訳

デの意味	学習歴			
	1年	2年～2年半	3年	8級試験
場所	1例	2例	1例	1例

表7 「\*デノ→デ」の誤用例

デ	用例	学習歴
場所: 5件	河のそばで<*での→で>顔を合わせたことは全然忘れられません。	学部1年生/学習歴1年
	ぜひ日本での<*での→で>生活を体験したいと願っています。	学部3年生(上)/学習歴2年
	それが、日本会社での<*での→で>人間関係が冷たい原因かもしれません。	学部3年生/学習歴2年半
	この石板の道だけがぼつりと残っている。ここで<*での→で>人々は相変わらずもともとの生活習慣を保って、自分なりのペースで楽に生きている。	学部3年生/学習歴3年
	もう少し学校での<*での→で>時間を過ごすようにし、語学の勉強だけでなく、多方面から自分をより充実させたい。	8級試験

#### 4. 3 「\*デノ→デ」の誤用

##### 4. 3. 1 誤用実態

「\*デノ→デ」の誤用例はそれぞれ「デ」の意味に当てはめると、すべては「場所」を表す「デ」である。学習歴別及びパターン別に分類すると、学習歴1年の学習者には誤用例が1例、学習歴2年～2年半の誤用例は2例、学習歴3年と8級試験の誤用例はそれぞれ1例という結果が見られた。詳細は次の表6になる。

表6から見ると、このような誤用は学習歴1年～8級試験の学習者すべてに生じ、特に学習歴2年～2年半には若干多く生じることが分かった。

また、誤用順位によって「\*デノ→デ」の誤用を詳しくまとめてみると、次の表7になる。

##### 4. 3. 2 誤用分析

(17) 川のそば<\*での→で>顔を合わせたことは全然忘れられません。(学部1年生/学習歴1年)

誤用例(17)では、下線部における「顔を合わせた」は後ろの「こと」の内容である。「川のそば」は「顔を合わせた」の場所を表すものであり、「顔を修飾するものではないため、「デノ」を使わず、「デ」を使うべきである。NP1の「川のそば」はNP2の「顔を修飾成分との混用と見られる。

(18) それが、日本会社<\*での→で>人間関係が冷たい原因かもしれません。(学部3年生/学習歴2年半)

誤用例(18)は(17)と似ているように、「日本会社」は「人間関係が冷たい」の場所を表すものであり、「人間関係を修飾するものではないため、「デノ」を使わず、「デ」を使うべきである。NP1の「日本会社」はNP2の「人間関係」の修飾成分との混用と見られる。

(19) ぜひ日本<\*での→で>生活を体験してみたいと願っている。(学部3年生(上)/学習歴2年)

誤用例(19)の下線部は中国語に訳すと、「想体験在日本的生活」という自然な文となる。そのため、この例は母語の影響を受けているように見られる。

(20) もう少し学校<\*での→で>時間を過ごすようにし、語学の勉強だけでなく、多方面から自分をより充実させる。(8級試験)

誤用例(20)は(17)、(19)と同じように、下線部における「学校」は「時間を過ごす」場所を表すものであり、「時間を修飾するものではないため、「デノ」を使わず、「デ」を使うべきである。また、下線部を中国語にすると、「度过的学校的时光」は自然に言える表現に近くなるため、NP1の「学校」はNP2の「時間」の修飾成分との混用の他に、母語干渉も一つの誤用原因として考えられる。

上述した誤用を見てきたように、学習者は以上のような

誤用が生じるのは、まず学習者は構文全体の成分を区別・把握されていない、次にデ格の名詞と動詞の組み合わせについて「デ」と共起する動詞を使い分けることがまだ習得されていないため、「での」と「で」の修飾成分を混同することや母語干渉などの原因が考えられる。

## 5. おわりに

これまで誤用例を見てきたように、誤用の原因は母語の干渉、NP2の「する動詞」との混同、母語の干渉及びNP2の「する動詞」との混同、知識不足、NP1をNP2の修飾成分と判断したことによる混用などが考えられる。さらに、「デ」の文法上の意味に従ったパターン別の誤用には「デ」が場所を表す意味の誤用が学習歴を問わず一番多い。

「\*デノ不使用→デノ」について、学習歴1年～3年半の学習者には観察された。特に学習歴3年半の学習者には顕著に見られた。誤用例はすべて「デ」が場所を表すものである。このような誤用が生じたのは中国語の母語の負の転移が一つの原因として考えられる。

「\*デ→デノ」の誤用に関して、「デ」が「場所」を表す意味の誤用が学習歴を問わず圧倒的に多く、次は「デ」が「様態」・「道具」を表すものであることが分かった。学習者はNP2が「する動詞」から転換した場合の混同現象は学習歴が長くなるにしたがって減少する傾向が見られる。

「\*デノ→デ」の誤用については、すべての誤用例は「場所」を表す「デ」である。NP1がNP2の修飾成分との混用、母語の干渉といった原因が観察される。

「\*デ→デノ」と「\*デノ→デ」に関する誤用例を見てきたように、誤用の原因はまず学習者は構文全体の成分を区別・把握されていないこと、次にデ格の名詞と動詞の組み合わせについて、「デ」と共起する動詞を使い分けることがまだ習得されていないため「での」と「で」の修飾成分を混同することや、母語干渉、NP2の「する動詞」との混同、知識不足、NP1がNP2の修飾成分との混用などの原因が考えられる。

今後の展望として、他の誤用コーパスや質問紙調査を通してより多くの誤用例を収集し、全般的に中国語を母語とする日本語学習者の誤用実態を明らかにしていく。その上で、中国語を母語とする日本語学習者に対する日本語連用格・連体格の効果的指導法を提案する。

1. 本研究は『YUKタグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス2015』Ver.5を使用している。(中

国国内の大学40校からの誤用のデータが含まれている。ファイル数8,535、文字数は5,555,632、タグ数は63,684である。)

2. 日本語8級試験(NSS8)は中国国内の大学における日本語学科(学部3、4年生)を対象とした最高レベルの日本語能力試験である。ここでは「8級試験」を「学習歴3～4年の学習者」として取り扱う。

## 参考文献

- 市川保子(1997)『日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 庵功雄他(2003)『中上級を教える人ための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 高橋太郎他(2006)『日本語の文法』ひつじ書房
- 黄成湘(2010)「「の」の付加による連用格の連体関係への転換について」『千葉大学日本文化論集』27-64, 千葉大学文学部日本文化学会
- 黄成湘(2010)「「の」による連用格の連体関係への転換について-「の」の代用による転換を中心に-」千葉大学大学院人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書第211集 千葉大学人文社会科学研究所
- 日本語記述文研究会(2009)『現代日本語文法2 格と構文』くろしお出版
- 国立国語研究所(1997)『日本語における表層格と深層格の対応関係』三省堂
- 彭広陸(1996)「デノ格名詞と名詞とのくみあわせ」『日本学研究』65-83, 外语教学与研究出版社
- 彭広陸(1999)「複合連体格の名詞を《かざり》にする連語」『ことばと科学: 言語学研究会の論文集9』99-193, むぎ書房
- 彭広陸(2006)「「連体」と「連用」について-日本語教育における新しい文法体系の構築のために-」『ことばと科学: 言語学研究会の論文集 その11』327-339, むぎ書房
- 山田敏弘(2002)「格助詞および複合格助詞の連体用法について」『岐阜大学国語国文学29』27-43

## Errors using “De no” and “De” by native Chinese speakers learning Japanese : A corpus based study on Essays

YANG WENLAN

For the beginner level Japanese language learner, “De”(“デ”)/“No”(“ノ”)/“De no”(“デノ”) are frequently used; however, corpus analysis (‘YUK Japanese essay corpus of Chinese native speakers studying Japanese with taggers 2015’ Ver. 5) has revealed that people often make mistakes when using “De” and “De no”.

This paper investigates the difficulties that native Chinese speakers learning Japanese encounter with “De” and “Deno”, highlighting two types of errors in particular; one concerns “De” being used in a sentence instead of “Deno”, and the other relates to “Deno” being used in place of “De”. I classified the situations where “De” and “De no” were misused based on the years the individual had spent learning Japanese and the context of “De”. In doing so this study has attempted to find the reasons why “De” and “De no” get mixed up by Japanese learners (explanations include interference from one’s mother tongue and confusing grammatical rules for when to use “De” and “De no” to name a few), while also offering suggestions for how these results can be used effectively in the field of Japanese language teaching, specifically when dealing with “De”/“No”/“De no”.